

1985 MRA 国際会議



多様性をこえた調和を

— 相互依存から相互貢献へ —

- 新しいアジアのパートナーシップ
- 平和を求める青年の連帯と責任
- 対立に橋をかける産業の役割
- 家庭と教育の新しい役割を求めて

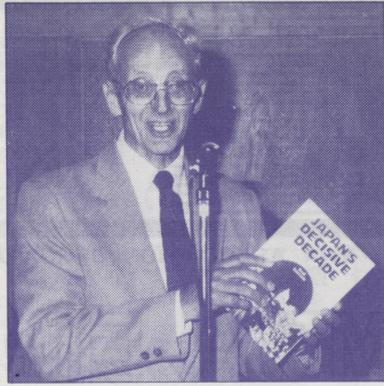


第9回MRA国際会議(小田原)が、5月3日～6日まで、「多様性を越えた調和を — 相互依存から相互貢献へ (UNITY AND HARMONY BEYOND DIVERSITY — From Inter-dependence to Inter-contribution)」というテーマのもとに、アジアセンターで開かれました。海外13カ国からの28名と、日本からの参加者150名の中には、「国際青年年」らしく青年の姿がめだち、また「アジアセンター」の名にふさわしく、アジアからの率直な発言があいついで、意義深い対話がなされました。

小田原での会議のあとは、関西(5/7～5/12)、東京(5/13～5/20)を中心に、二週間にわたってさまざまな会合を通じた交流がおこなわれました。貿易摩擦、市場解放と、なにかと外国からの非難をうけがちな今の日本だけに、「日本は世界のためにより大きな責任をになって下さい」という外国人参加者からの呼びかけに、多くの方がたが共鳴されました。

小田原会議から

●バズル・アントウイスルさん（米
国・昭和25年から八年間家族とともに
日本に滞在）：戦後の日本を復興し、
日本の方向性を定めるために活躍し
た日本人についてあらわした著書、
『日本の進路をきめた十年』を紹介。



●サレハ女史（マレーシア・回教婦
人福祉協議会会長、セランゴール州
のサルタンより「ダツウ・パドゥカ」
の称号をうける）：人と人とのつな
がり为基础になければ、国同士の関
係は、互いの利益のみに左右される
商業的なものに陥（おちい）ってしまします。
思いやりと信頼関係を築き、双方
の富や資源を活用して世界に援助の
手をさしのべていこうとするとき、
新しい友好関係が生まれていくこと
でしょう。



●相馬雪香さん（難民を助ける会会
長）：小さい子でも神から与えられ
た良心をもっています、大人にな
るとそれがくもりがちです。善いこ
とを言っても考えても、自分の生活
や心がくもっていると本当のものは
見えません。心の垢落（あか）らしをしてく
れるのがMRAです。人のあらさが
しばかりしてはコマは進みませ
ん。自分から毎日かわっていくこと
ろに、エネルギーがわいてきます。
満州事変がおこり、日本が国際連
盟を脱退したころに、父、尾崎行雄

について米英両国をまわりましたが、
日本が孤立していくのをまのあたり
にして悲しく思いました。現在、もの
に恵まれた日本は、とかく世界中に
今なお存在する苦しみを忘れていく
す。他の人びとの痛みを知っていく
ための鋭い感受性をもちたいもので
す。父が亡くなる前にこう言ってお
りました。「日本のこれからの生きる
道は、世界から信用され、尊敬され、
愛される国になることです。」

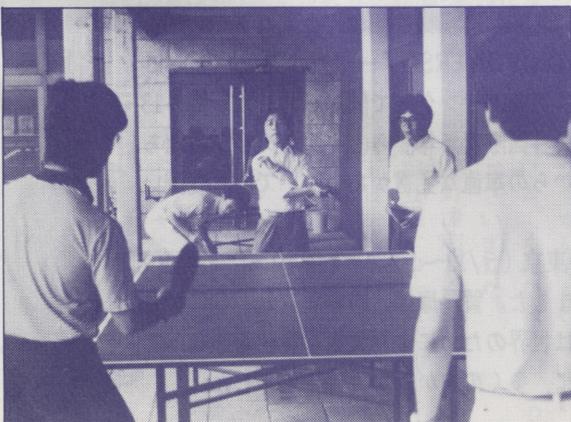
●ジム・ニュートンさん（米国・不
動産投資コンサルタント）：アメリ
カのインディアンのことわざに、「人
を批判する前に、その人のモカス
ン（しか皮製のくつ）をはいて一マイ
ル歩いてみよ」というのがあります。

そうすれば、その人の苦しみや考え
がわかるだろうというのです。私た
ちアメリカ人も、日本人のくつ（わ
らじ）をはいて一マイル歩いてみ
るべきでしょう。

●友松範昭さん（慶応大学三年生）

：平和の中に生まれ育った自分は、
平和を空気のように考えてきました。
新聞を読む時も、後のテレビ欄から
始めてスポーツの記事を読むくらい
ですから、スリランカの人種間の抗
争のような問題には、どんな解決法
があるのか見当もつきません。

しかし、善悪の判断をし、相互理
解を通じて平和を求めていくために
は、四つの標準（絶対正直・純潔・
無私・愛）が助けになるでしょう。



●自由時間の「日中卓球大会」
（右から）番目が友松さん

小田原会議から



●柳沢錬造参議院議員：日米の貿易摩擦について、野党の議員は米国に對して不満をいいます。しかし、もし戦後に米国からの食料の援助がこなかつたなら、今日の私たちはないでしょう。今こそ、経済問題をかかえる米国へ、そして他の国々へと助けの手をさしのべるときです。恩を忘れた国民は滅びるといいますから。



●デビット・オールブルック博士（オーストラリア・解剖学教授、ホスピス運動やアムネスティ・インターナショナルでも活躍）：「自分が変わる」ことを経験してから、いろんなことに関心をもち始め、世界が広がりました。

若いころ第三世界の健康問題について考えましたが、当時の決意をまっとうしてウガンダの医大設立に参画できたのは、アフリカで働きはじめてから十三年もあとでした。毎朝、静かな時をもち、四つの標準にあわない行動を正し、次にすべきことを求めていったことで、目標をもちつづけることができました。一度に一步ずつ進むこと、そのために自分の準備ができていることが大切です。



●瀧山 養さん（海外鉄道技術協力協会理事長）：柔らかな土壌での工事の経験をもつ日本の国鉄は、韓国

●メアリー・オールブルックさん（オーストラリア）：家庭をもったときに、看護婦の仕事をやめて母業に専念することにしました。一日の終わりには四人の子供たちの世話でくたくたになっている私に、帰ってきた夫は自分の充実した一日のことや、とりくんでいる研究の大切さを話してきかせます。あいそよくふるまっていた私も、ある日ふいに怒りが爆発しました。そのあとで静かな時間を二人でもち、私は怒ってしまったことを、一方、夫は私への配慮のたりなさをあやまりました。二人は、互いの状況を理解すること、自分をおさえてでも相手を思いやることを学びました。このできごとは、子供たちにもよい影響を与えたようです。

の釜山の新しい地下鉄建設のために技術協力をおこなってきました。それに先だつて、私は日本の韓国併合時代のことを詫言いました。ちょうどそのころ行なわれた中曽根首相の訪韓も手伝って、韓国側も私たちの申し出をこころよく受け入れてくれました。韓国の人たちは、日本人がしたよいことも覚えていてくれました。地下鉄は七月に完成の予定です。

●韓国代表によるコーラス





十代のころ、「日本に行きたい」といった私に、祖母は猛反対をしました。日本の香港占領中に職を追われた祖父は、労働者として東南アジアへ送られ、二度と戻ってはこなかったのです。

歴史の時間には、日本が中国を侵略したことを学び、南京ぎゃく殺の写真も見て育ちました。

その後MRAのスタディコースを受けにオーストラリアへ行き、日本からの若い女性二人に会ったのです。それまでは心の奥そこにしまわれていた感情が、表へとわきあがってくるのを感じました。

しかし、中国がなぜ三つに分割されているのと無邪気にたずねられて、「この人たちは何も知らないんだ」と思い、自分の日本人に対する憎しみは正当化できないとも思いました。

コースを通して、四つの絶対標準(正直・純潔・無私・愛)を受けられるMRAの生き方を学び、私の思っていることを日本の女性達に正直に話すことにしました。するとそのうちの一人が、「私も、日本

人と中国人間の橋渡しのできる人間になりたい。」と言ってくれました。このような友情が少しずつ育っていったなら、二つの民族の関係も強められていくことでしょう。

香港に帰ってから、日本の歴史の教科書問題がもちあがり、友人がデモに参加するよう誘ってきましたが断りました。「デモは、日本人の考え方を変えるための最良の方法ではない」こう思えたのは、私にはすでに日本の友人ができていたからでしょう。

しかし、日本の若い世代が歴史をほとんど学んでいないのは気になります。過去にあやまちがあつたことを正確に教えられない限り、それをどうやって正していくかもわからないからです。

明治維新に学ぼうとして日本にきた中国人のなかには、近代中国の父「孫文」もいました。日本で革命の基盤を築き、中国の近代化の準備にあたったのです。

今日、日本で学んでいる多くの中国の若者は、中国の未来の指導者となる人びとです。「中日友好」の成功のためには、それをささえる人と人との友情が大切だと信じています。

●大木浩史さん(貿易会社勤務) : 同室した中華人民共和国からの留学生に、「自由はあるのか聞いてみました。社会体制の違いで、ある程度の制限はあるけれど、ちゃんといえますよ。日本はどうですか。この

●シタ・セネヴィラトネさん(スリランカ・全国青少年福祉協議会議長) : 一九五一年、サンフランシスコで講和会議が開かれ、当時は戦争



●リュウ夫妻(中華民国・元教員、現MRA専従) : 二年前に初めての子供が生まれる直前、友人から「よ



国には小学生の自殺があると聞きましたが。」と反対に問い返されて考えさせられました。私たちは自由にくらしているようで、知らぬまに「心の自由」を失ってしまったているようです。

の傷あとなまなましいアジアの国が、日本との平和条約を結ぶことをしぶっていたとき、スリランカのジャヤワルデネ代表(現大統領)がまっさきに口火をきって、日本との講和を促しました。

以後三十年以上にわたって、日本とスリランカの友好関係は続いています。最近コロンボに美しい国会議事堂を建てて下さった日本に感謝いたします。

い治療を受けたかったら、お医者さんにお金を包んだ方がいいよ。」と忠告されました。考えた末、神にすべてをまかせることになりました。

出産後一か月、妻は歩くことができませんでしたが、後悔はしていません。よりよい世界を望むなら、そのための代償をはらわねばなりませんし、なによりもきれいな心で娘を迎えることができたことを誇りに思っています。

関西プログラム

5月8日(水) 関経連午餐会

9日(木) 日本の伝統文化視察 (京都)

大阪青年会議所夕食会及びホームステイ

10日(金) ダイアログ・イン・コウベ

11日(土) 大阪集会



● スイスのコーの責任者の一人、ハンローザ夫人(右)が、昨年、コー会議に六人の中学生使節団を派遣した関西・日本スイス協会の日向会長(関経連会長)を表彰訪問(後方は、相馬雪香さん)



● スイスのコー世界大会へのツアーの参加を呼びかける滝さん親子(奈三枝ちゃん・大阪集会にて)



● 塚本三郎民社党委員長と懇談



● 東芝労使代表との交歓会 (箱根・芝翠荘にて)



● 石井公一郎ブリジストンサイクル会長による講演「教育改革私見」(国際文化会館・東京集会にて)



● セネガル大使館の一等書記官ンジャイ氏(中央)とスコットランドのジェフリー・クレイグさん(国際文化会館・東京集会にて)

日本の指

日本ネパール教育協力会代表世話人
(高校教師) 石田 進

シヴァ神が住むという、美しいヒマラヤの白い峰々が輝くネパール王国を、海外ボランティア団体の用件で訪れた時のことです。

要請により、当協会は屋根用トタン四十枚を寄付しました。そこで村の人々が労働奉仕で壁などを造り、小学校の教室を二室増築した結果、生徒数を七十名増加することができたと感謝されました。種々の交渉も、在ネパール日本大使館等の協力もあり、非常にうまく進展しました。また、地方の教育調査も海外青年協力隊員のおかげですべてが順調に進み、いよいよ帰国の前日になりました。

私たちのうわさを聞いて、ある田舎の村の小学校の先生が、自分の村の大人達に夜のボランティア学習塾を開いて字を教えたいが、村が貧しいので石油ランプと灯油が買えない、と熱心に手紙で支援を訴えてきたので、受けとりに来るよう返事をしたことがありました。その使者が、帰国前日の夕方に宿舎を訪れて来たのです。彼らと共に買物に出かけたのですが、ネパールの夜は早く、すでにどこも閉店です。や

つと見つけた店にも粗悪なランプしかなく、買うことができませんでした。

仕方なく、ランプ三灯と灯油十リットル分を現金で渡し、必ず購入店の領収証と、その先生の報告書を郵送するよう、切手代を渡して約束させました。

帰国後三ヶ月たつてもたよりはなく、知人を通して調査したところ、まったく購入されておらず、多分食糧となっておなかの中に納まったのだろう、ということでした。金額はわずかではありませんが、日本の皆様からお預りした大切な浄財です。当然、識字学習塾も開かれてはいけません。私は期待していただけにかっかりし、だまされたような気持ちにもなりました。冷静にはいしましたが、心は不満と怒りで、ふぐのようにふくらんでいました。

翌朝、静かな時間をもっていると、関西MRA例会でよく聞く、「人を指さすとき、残りの三本は自分を指さす」というその手が、突然目の前に浮んできたのです。私はその瞬間、とても恥ずかしくなりました。私は自分のことはよく反省せずに、相手を責めてばかりでなく、現金を渡したために、相手に罪まで犯させてしまったのです。

その翌朝早く空港を出発したのですが、親しい友人に購入のための代行を頼め

どんな話し合いの時でも



「誰が正しいか」ではなく



「何が正しいか」できめるのが
た・い・せ・つ

ばよかったです。現在でも貨金の代りに現物支給が行われ、ほとんど現金を持たずに生活している田舎からの生活の苦しい使者に、現金をまとめて渡してしまつた私に責任があることに気づきました。

私は申し訳ない気持ちで一杯になり、頭をかかえてしまいました。すぐに、ネパール語ですみませんとおわびの手紙を書きました。毎年ネパールを訪れますが、次回は最初に石油ランプと灯油を、その使者に届けたいと思っています。MRAによって私が支えられていることを、しみじみと感じる今日この頃です。ありがとうございます。

世界の動き



〈アメリカ〉…六月十五日〜二十三

〈中南米〉：インフレ・対外債務・軍政権・失業と、暗いニュースの多い中南米諸国のうち、ウルグアイ、コロンビア、チリの三国で、三月にMRA会議を開催。よりよい世界をきずくためには「許し」と「社会正義」が必要である、というところが強調されました。

杉 裕雄

オーストラリア、フィジー、スリランカ、イギリス、台湾、香港、日本の七カ国から十人の若者（うち三人はアボリジニーというオーストラリア原住民）が、オーストラリアにあるMRAセンターのアーマに集い、今年一月二十日より十二週間に及ぶ第十一回スタディコースが始まった。

参加者の九割がアジア・太平洋諸国出身という今回のコースで、私はアジアの将来について考える機会を得た。

戦時中、私の父の家族は満州に住んでいた。引き揚げる途中、父は実の父と妹を亡くし、父自身も中国兵から重傷を負わされた。しかし、私は父の口から中国の悪口を聞いたことがない。むしろ父は中国語会話を独習したり、中国東北地区（旧満州）を旅行したりして、中国を愛し続けている。

私はこのような父を持っているので、台湾の若い女性から「台湾の日本に対する憎しみは深い」という涙の言葉を聞かされた時、苦々しい気分と共に、怒りさえ感

じた。しかしMRAの四つの標準の一つである絶対愛を考えてみたとき、私を含めた日本人が他のアジア諸国に対して、軽蔑や優越という感情を無意識のうちにいだいていることに気づき、愕然とする。いまわしい過去が尾を引いて、世代から世代へと憎悪・軽蔑の感情が継承される。まるで箸の使い方が伝わっていくように。さいわい、私には幾人かの韓国の友だちが日本におり、コースを通じてアジアの新しい友人をつくることもできた。私たちの世代は、愚かな慣習や因習を次の世代へ伝える

ことはできない。むしろそれらを取り去るよう努めよう。五十年、百年後のアジアのために。

最近、アジアにおいて野球熱が高まってきている。日本の大衆は野球が好きだ。演歌やポップスが好きな人なら、韓国や台湾の演歌、ポップスを知る努力をしようだろう。ほんの小さな点でもかまわないから、相互理解に努めよう。日本の若者がその昔イギリスのビートルズを追いかけたように。

核兵器廃絶のみが、平和への道ではないのだから。



●勢ぞろいしたスタディコース終了生（右端が杉さん）

私の宝もの

陽光学院々長

父親・母親講座講師

山崎 房一

私の手もとに、昭和二十四年に発行されたザラ紙に印刷された一冊の本があります。これは私の宝もので、私の人生を変えてしまいました。年のせい、私はこの本に出逢ったことは有難いなど、しみじみ思うようになり、捨てたいと思つたことも度たび、事実、この本から逃げ出したこともあります。しかし、私はこの本の魔力にどうしても引き寄せられてしまつたのです。著者は英国のピーター・ハワード氏で、『思想は足をもっている』という本です。

ハワード一家はMRAに出逢つて新しい家庭をつくりました。そこに心身共に傷ついた人々、憎しみのどれいになっている人々、失意のどん底にある人々が世界中からやってきます。傷ついた心はいやされ、新しい希望と生きる力を発見して再出発をしていく人々、その人々を如何に助けていったかというハワード一家の感動的な体験記です。

ハワード一家のような生き方をしたいと願っている心が、私のどこかにわずかばかりあるのかもしれない。三十六年前、真夏のカンカン照りの日に出逢つたこの本が、今、父親・母親講座のなかで私を支えてくれているのは事実です。（続く）

日まで、ワシントンのジョージ・タウン大学で開かれた国際会議『相違点を乗り越えた世界づくり』には、世界四十カ国から五〇名があつまりました。日本からは相馬雪香、藤田幸久、兼松恵各氏が、また現地の日本の方がたも多数参加されました。

〈インド〉……次回のインド国際会議「第六回、開発のための対話」は、一月四日～十一日の予定です。チベットのグライ・ラマ（ゲイツ）殿下による基調講演で開会されます。ぜひ、皆さんの予定表にかきこんでおいて下さい。

「四つの絶対標準の正直、純潔、無私、愛に照らして生きるんですって？できっこない！」とはじめから問題にしない人もあるでしょう。でも試してみよう、という冒険心をもった人を相手に、今回はお話ししたいと思います。

今年は、国連の提唱する「国際青年年」です。若さの特徴をあげてみると、理想に燃え、マンネリを嫌い、冒険心が豊かであることなどでしょう。か。世界がこのままでいいと思う人は一人もいないのですし、自分の幸せを望まない人もいないわけですから、思いきってMRAの提供する処方せんを実行してみませんか。宇宙時代の到来もほど遠くないのですし、思いきって心の世界の冒険に乗り出してみてはいかがでしょう。

最近、こんな話をききました。「もう三十年も前のことです。私をはじめ政治家になったとき、MRAに出会いました。まず『正直』ということばが私の心にささりました。公人として、また自分自身に対しても、

●心に残る言葉●

ラクダは、自分のコブを見ることはないが、目の前の誰かのコブは、いつも気にかかる。(アラブのことわざから)

『正直』であることは何より大切だと感じました。そして『愛情』。人を愛し、人に奉仕する気持ちになかったら政治家になっても無意味だ、と思ったのです。「こんなきびしい「心」の声をきいたという政治家がいるのです。現実の生活の中でいろいろな困難にであいながらも、若い時に得たこの考え方を縦糸として、生きざまの綾錦を織ってきた人を、あなたはあざ笑いますか、それとも応援しますか。

つまづきながら、転びながら立ち上がるところに意義があることは、「七転び八起き」のことわざが示しています。転ぶことをおそれず起きあがる時は、自分が救われるだけでなく、社会の浄化と、世界を変えるために役立つのです。

これほど意義のある生き方はあるでしょうか。「青年よ、大志を抱け」という言葉を真に活かす鍵はあなたに心にならなければならないことをお忘れなく。

●事務局近況●

●小田原会議で知りあった日本の学生と留学生とが中心となって、定期的にあつまることになりました。友をつくり、おたがいの国を知るのが目的のこの会は、毎月第三日曜日に田端のMRAハウスでひら

テーマ
〈緊迫した世界に
とす希望の灯〉

コーMRA世界大会へのご案内 (スイス 1985 7/13~9/1)

- | | | | |
|----------|-------------------|----------|---------------------------|
| 7/13~14 | 開会式 | 8/7~14 | アジア、アメリカ、ヨーロッパ (アジアセッション) |
| 7/13~20 | 青年のための会議 | 8/17~25 | アフリカ/アフリカとヨーロッパの対話 |
| 7/19~21 | 病める世界における医療関係者の役割 | 8/27~9/1 | 人と経済 (産業人会議) |
| 7/25~8/2 | ファミリーセッション | | |

※お問い合わせは (社) 国際MRA日本協会事務局へ

かれています。前回は、スライドで台湾が紹介されました。ピクニックや卓球大会などの楽しい行事も計画しています。二十一世紀になう若者たち、関心があったら事務局へご一報下さい。

●四月から、古田勝美くん(日本大学国際関係学部四年)が事務局を手伝ってくれています。字のうまい働きもので、小田原会議でも陰で大活躍してくれました。アフリカや難民問題にも関心をもつ、若くたのしい国際人です。

●六月三日から日本を公式訪問された、民主カンボジア連合政府のソン・サン首相の講演会の受付を、当MRA協会がひきうけました。すけつとにきてくれた皆さん、ありがとうございます。

●事務局の長野清志さんは、「日中友好埼玉県民会議」の一行に加わって、六月五日から十日間中華人民共和国を訪問し、中国語の勉強の成果を生かすチャンスにめぐまれました。おみやげは、運動会でころんでできた両ヒザの名誉の負傷……(?)

